脱輪事故を防ぐために　ホイールナットの締付トルクに注意!!

～春・秋はタイヤ交換の時期です～



タイヤ・ホイールの交換作業や点検が適切に行われていない場合、
ホイールナットの緩みやホイールボルトの損傷につながり、
重大な脱輪事故を引き起こすおそれがあります。
正しい取付方法と指定された締付トルクを確認し、安全な運行をお願いします。

国土交通省の最新データ

大型車の車輪脱落事故は、依然として多く発生しています。

2025年度
128件
前年度120件から8件増加

約95%
左後輪から脱落



約85%
タイヤ交換等の作業後に発生



50%（64件）
11月から1月に発生



「令和7年度大型車の車輪脱落事故発生状況と傾向分析について」より

車輪の脱落は、人命に関わる重大な事故につながるおそれがあります。
正しい取付け・適正な締付トルク・確実な点検で、車輪脱落事故を防止しましょう。

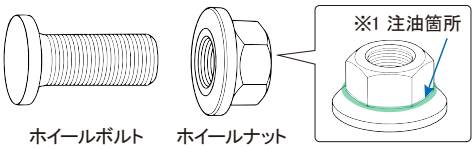
タイヤ交換後は増し締めを！
タイヤ交換後は、走行による初期なじみによりホイールの締付力が低下します。
50～100km 走行を目安に、ホイールナットの増し締めを行ってください。

トレクス製トレーラは、車軸の種類により締付トルク・給油条件が異なります！

車両貼り付けラベルや車軸の整備要領書を確認し、指定の締付トルク・給油条件に従って作業してください。
※当社が標準採用するBPW車軸は、ドライでの締付けが指定されています。
その他の車軸・車両については、各メーカーが指定する締付方法に従ってください。

1 10穴（ISO）ホイールナット　正しい締付け・点検方法 BPW車軸 P2

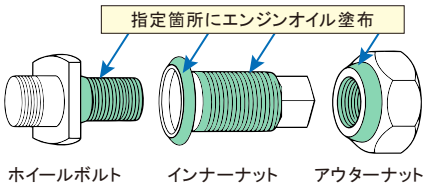
・ホイールボルトはエンジンオイルの塗布禁止（ドライ）
M22×1.5　締付トルク：600～660 N·m
※1 ナットとワッシャーの回転が悪い場合のみ、接触部に軽く注油



2 8穴（JIS）ホイールナット　正しい締付け・点検方法 BPW車軸 P3

・スチールホイール用（M20×1.5）指定箇所にエンジンオイル塗布
締付トルク：540 N·m

・アルミホイール用（M20×1.5）指定箇所にエンジンオイル塗布
締付トルク：440 N·m



3 車輪脱落を防ぐための点検・整備ポイント P4

タイヤ交換時や日常点検で確認したい5つの点検・整備ポイントをまとめました。

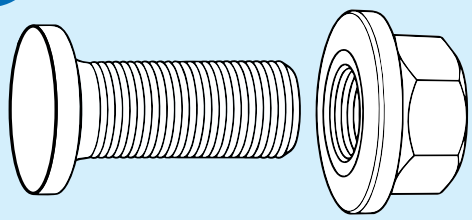
1 10穴（ISO）ホイールナット　正しい締付け・点検方法

ポイント エンジンオイルの塗布に注意してください！

ホイールボルトおよびホイールナットのねじ部には
エンジンオイルを塗布しないでください。
指定された条件と異なる状態では、
適正な締付力が得られないおそれがあります。

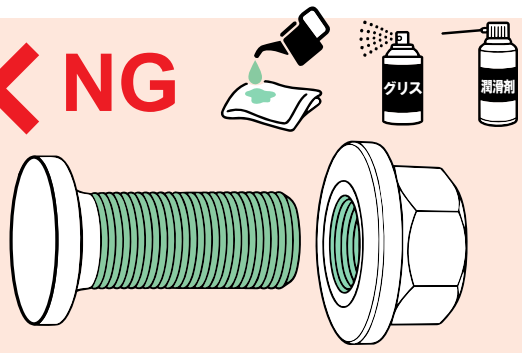
10穴（ISO） M22 × 1.5	エンジンオイル等 塗布禁止（ドライ）

○ OK



ドライで使用

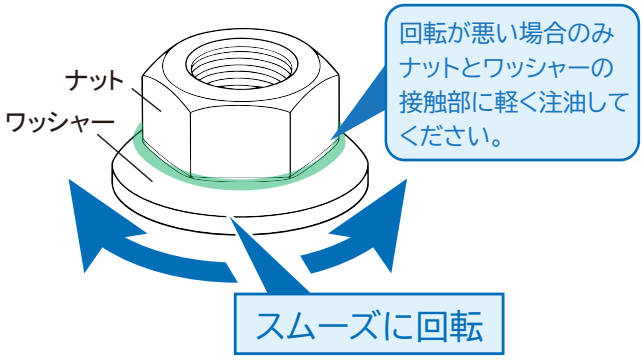
× NG



ボルト・ナットへの注油はNG

ポイント ホイールナットのワッシャーを確認する

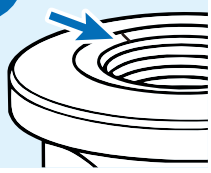
1 ホイールナットのワッシャーがスムーズに回転することを確認してください。



⚠ 注油するのはホイールボルトではありません。

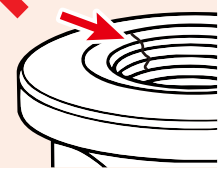
2 ホイールナットの亀裂を点検してください。かしめによる小さな亀裂は正常です。

○ OK



小さな亀裂は正常です。
ワッシャーがスムーズに回転することを確認してください。

× NG



亀裂がねじ山まで進んでいる場合は、交換してください。

締め付け手順

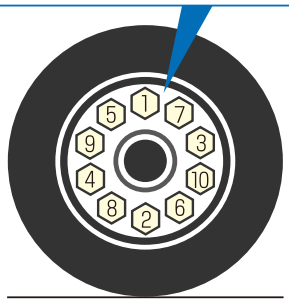
(1) 対角線の順に2 ～ 3回に分けて締め付ける
(2) 最後に指定トルクで確実に締め付ける

ポイント 指定された締付トルクで締め付ける

ホイールナットは、指定された締付トルクで確実に締め付けてください。

10穴（ISO） M22 × 1.5

締付トルク 600～660 N·m



⚠ **締めすぎても、締付不足でも危険です。**
過大トルクはホイールボルトの伸びや損傷につながり、ホイールナットが緩む原因となります。

2 8穴（JIS）ホイールナット　正しい締付け・点検方法

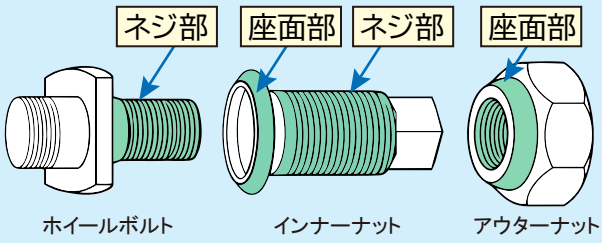
ポイント 指定以外の潤滑剤は使用しないでください！

ホイールボルト、インナーナット、アウターナットの
指定箇所にエンジンオイルを塗布してください。
スプレーグリス、潤滑剤などは使用禁止です。
トルク過大の原因となります。

8穴（JIS） M20 × 1.5	指定部位に エンジンオイル塗布

○ OK

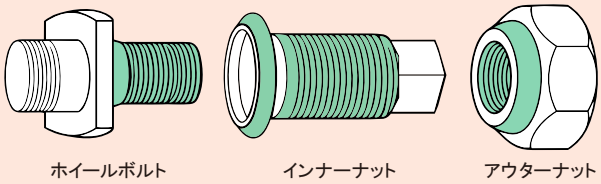




エンジンオイル塗布

× NG





スプレーグリス・潤滑剤などはNG

ポイント エンジンオイルの塗布方法

ウエスにオイルを垂らし、指定部位を拭いてください。



ポイント 指定された締付トルクで締め付ける

ホイールの種類によって指定締付トルクが異なります。
ホイールナットは、指定された締付トルクで確実に締め付けてください。

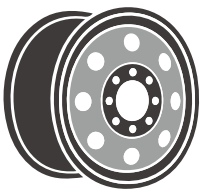
スチールホイール　8穴（JIS）　M20 × 1.5

締付トルク **540 N·m**



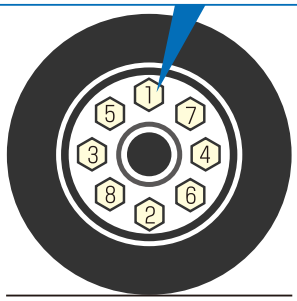
アルミホイール　8穴（JIS）　M20 × 1.5

締付トルク **440 N·m**



締め付け手順

(1) 対角線の順に2 ～ 3回に分けて締め付ける
(2) 最後に指定トルクで確実に締め付ける



締めすぎても、締付不足でも危険です。

過大トルクはホイールボルトの伸びや損傷につながり、ホイールナットが緩む原因となります。

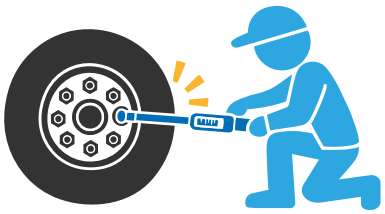
3 車輪脱落を防ぐための点検・整備ポイント

車輪脱落事故を防ぐためには、タイヤ交換時だけでなく、
交換後の増し締めや日常点検も重要です。
次の5つのポイントを確認し、確実な点検・整備を行いましょう。

POINT 1 指定トルクでホイールナットの増し締めを行う

タイヤ交換後は、走行による初期なじみにより
ホイールの締付力が低下します。

50～100km走行後を目安に
指定トルクでホイールナットの増し締めを行ってください。



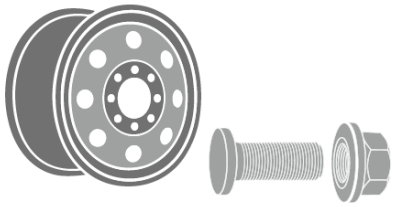
POINT 2 運行前に緩み・異常を確認する

運行前には、ホイールナットの緩みや脱落、ホイールボルトの
折損などがないか確認してください。



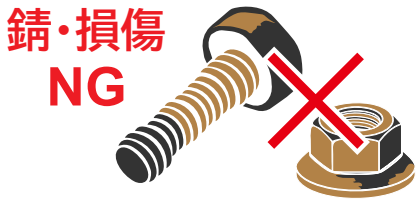
POINT 3 ホイールに適合する部品を使用する

ホイールを交換する際は、使用するホイールに適合した
ホイールボルト・ホイールナットを使用してください。
※締付トルク・給油条件を確認してください。



POINT 4 錆・損傷のある部品は使用しない

ホイールボルト・ホイールナットに
著しい錆や損傷などの異常がないか確認してください。



POINT 5 ねじ部・取付面の錆や異物を取り除く

ホイールボルト・ホイールナットのねじ部や、ハブ・ホイールの
当たり面を清掃し、錆・ゴミ・異物を取り除いてください。
錆・ゴミ・異物が残っていると、十分な締付力が得られないおそれがあります。



**正しい取付け・適正な締付トルク・確実な点検で、
車輪脱落事故を防止しましょう。**

TREX 日本トレクス株式会社 サービス部
TEL：050-3367-7494

・本紙に関するご質問等は サービス部まで
・他メーカーの点検整備については
各トレーラメーカーへ問い合わせください

不許複製